

運動会

様々な文献や情報によりますと、運動会の起源は、明治7年東京にあった海軍兵学校でイギリス人教官が行った「アスレチックスポーツ」（日本語訳：競闘遊戯会）であるようです。

その種目は、短距離走、中距離走、走り高跳び、走り幅跳び、三段跳びなど、現在、陸上大会にある種目をはじめとして、水を入れた桶（おけ）を頭に乗せて走る「水桶（みずおけ）競争」や互いに背負って走る「背負い競争」などの遊びの要素が含まれた種目もあったようです。

これが日本全国に広まっていますが、明治16年に東京大学で開催された大会で「運動会」という名前が使われ、現在に至っているようです。

明治期の多くの学校には、運動会を開くことができるような大きな運動場はありませんでした。そこで、複数の学校が集まり、近くの広場や浜辺、神社の境内などで、運動会が開かれていたようです。最も一般的な種目は、「綱引き」で、現在の多くの運動会でも、種目として実施されています。現在、行われている中学校総合体育大会や小学校連合体育大会のような運動会であったと思います。

運動会は、学校から離れたところで開催されたため、今の「遠足」の要素もあったようで、運動会でお弁当を食べるようになったとの事です。

学校以外の開催でしたので、地域の多くの方々が運動会を見に集まったとのことです。さらには、「大玉ころがし」などの地域の方も参加できる競技も種目として取り入れられることとなりました。「運動会」の地域の行事として位置づけは、初期の頃からであったようです。

大正期には、単独の学校で運動会が開催されるようになりました。運動会が開催できる大きさの運動場が整備され始めたことが推測できます。万国旗が飾られるようになったのもこの頃からです。秋に開催された「運動会」は村の祭りの性格が、このころから強くなり、地域の主要な行事に位置づけられていたようです。

5月13日は中学校の体育大会（体育祭）、5月20日は小学校の運動会が開催される予定です。今も昔も変わらず、子どもたちの姿を、家族や地域の方々が楽しみにする行事です。みんなで良い行事にしたいと思います。みんなが参加しやすいように、お互いに譲り合いが必要になります。駐車場や写真撮影などでも、いくつか制限がかかるとはありますが、ご協力よろしくお願ひします。

平成30年5月11日
長与町教育委員会学校教育課